Gôkan:(No. 014)
Jidai Kakami.
Part 2 Book 11--20.
へ 13
3740
21

門へ13
3740
21

越後の國の七不思議は前の編の口画に見せ侯。
再び言んもぐ〜しけれど就中かの塩火八方村なる何某とかいふ。
民家の庭に今なほ竹筒と架渡せば筧に水の通ふごとく。
何里の空にも自由に取ひきく。夜泊油燈の換りとなり。専農家の
せたもけとなること。俗の宜く知る所なれども。婦幼稚童は疑て奈何
なる故ぞ蜂沢等ぶ。怎る伎倆をもて。なられと思ふのみも多くは。と重て
案に録せるこの人鬼奇は毒風にて。全く氣形にかはらぬども。此風に
者は或は手。或は足。或は頭。鎌もて自と伐られ。血汐被るゑとの。俚言も
あれば風の裡に怪しき形状と描せる。這は咸僕ら扛撰られども雷獸雷
鳥あるべし念入べ。又ゑとのこと定めがたし。具眼多識の鳳若子に見せ度
まあ〜ぐるべし。例の鹿漏は免ゆく

安政丙戌千初春新鐫

爲永春水記

銅
藤原の兼家公

因果
明代十二

市
蜂
蚊

市
蚊

蜂
蚊
市

春木作國貞画

風流画早切　越前奉書紙　伊豫奉書紙

○縮ゆ～ろけ　早切
○こんむ～　古切

任齋百図　全　洞都画

上製　婦人みな

忠臣義士銘々傳　一　稲齋芳虎画

目録

当年新板　春お六　若林堂藏